

第3回佐用町立学校の在り方検討委員会資料

佐用町立学校の在り方検討委員会

1. 第2回佐用町立学校の在り方検討委員会 令和7年12月23日開催 会を通じての意見(要約)

(1)小規模校の強みと課題

- ・小規模校は個別支援が行き届き、地域との関わりも深い一方、学びの多様性・人間関係の固定化に課題がある。
- ・複式学級は議論の多様性に限界があり、経験した教員も大変であった。

(2)統合への期待と不安

- ・統合時期・方法がまだ不透明で、保護者としての不安がある。
- ・中学校は部活選択肢拡大から1校体制も検討余地あり。小学校は通学負担から複数校配置案も必要。
- ・通学は地形・距離の影響が大きく、柔軟な交通設計（小型車両増便など）が必須。

(3)子どもの成長と居場所確保

- ・子どもの“居場所”が減っている現状への危機感。統合後も跡地活用などで居場所機能を維持して欲しい。
- ・小規模校では逃げ場の少なさもあり、クラス替えや複数校選択制など選択肢確保が必要。

(4)地域連携・コミュニティスクールの継続

- ・地域資源を活かした教育こそが学校の魅力。統合後も地域との関わりを維持・強化を望む。
- ・旧町単位の段階的な小中一貫整備など、地域軸のアプローチも提案あり。

(5)若い保護者の参画と合意形成

- ・20～30代の保護者は多忙で参加が難しい。意見が拾いにくいのが課題。
- ・アンケートは地域偏在があるため、今後は可能なら均等配布・回収や集計工夫が望まれる。

(6)教育の原点と将来像

- ・教育は子どもの可能性と希望を広げるためのもの。多様な意見に触れ、主体的に学ぶ環境が重要。
- ・佐用町は小・小中連携が進んでおり、これを基盤に“育てたい子ども像”を共有する必要があるのではないかと。